

じゃっと新聞

NO.43 号

ラオスツアー報告会特集

発行日：2006.1.25

発行人：小幡 順子

発行所：じゃっと事務局

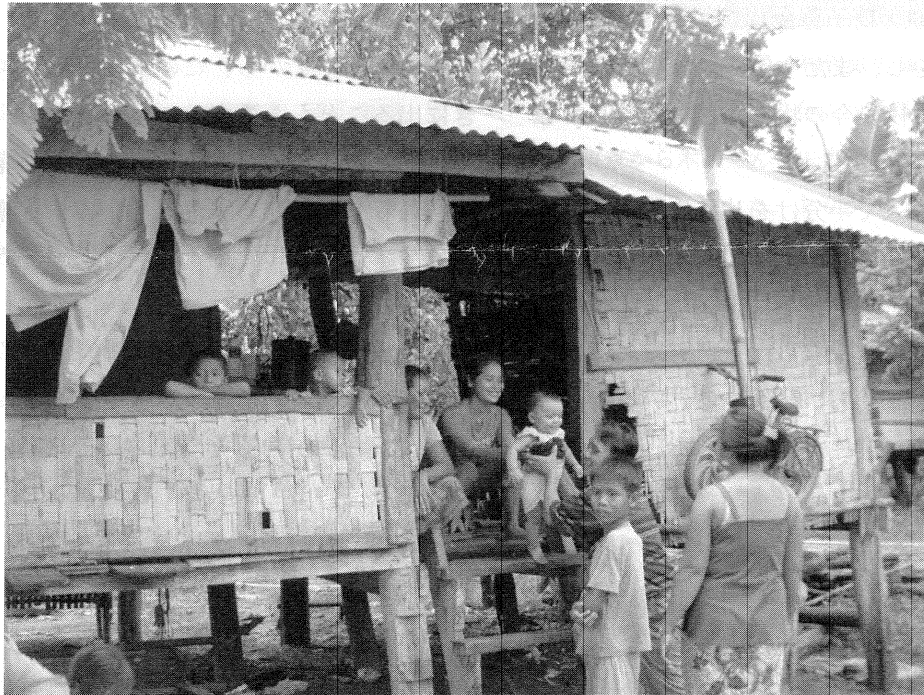
〒895-0054 鹿児島県薩摩川内市神田町

11-20 若松記念病院内

TEL/FAX 0996-27-0193

e-mail jaddo@po2.synapse.ne.jp

<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/>



ビエンチャン近郊の村の子供たち

会 長 小 幡 順 子

明けてまして、おめでとうございます。

じゃっとの活動も、干支を一回りして二巡目の13年目を迎えました。二巡目ですから「この前と同じ事」ではなく、一步でも進んだ活動が出来るようにがんばっていききたいと思います。

じゃっとの活動拠点である、鹿児島県、そして薩摩川内市には国際交流協会があります。そのそれぞれの活動にも「じゃっと」は参加しています。

鹿児島県の国際交流協会を通して、県下の各種団体と交流していますが、その協力団体の活動として2月に環境をテーマにしたフォーラムが開かれます。講師には「海に沈みいく国ツバル」を日本に紹介しているカメラマン・遠藤秀一さんです。講演だけで

なく、参加者全員による意見交換会なども計画されています。近くの方は是非足を運んでみてください。(詳しくは、事務局案内を参照)

薩摩川内市の国際交流協会とも協力して、じゃっとの特色を生かした国内活動を展開していく予定です。よいアイデア、提案などありましたら気楽に事務局までお願いします。

じゃっとの活動は「こんなことしたいけど～」「よかこっじゃが、やっど」「じゃっと、じゃっと」と始まった会です。みんなで作る会という基本を忘れることなく今年も活動して行きたいと思います。皆さんのご協力お願いします。

じゃっどツアーを終えて

理事長 小幡順子

ASEAN 外相会議の都合で、急遽日程を変更し8月16日の出発で12回目のじゃっどツアーでラオス・ビエンチャンを訪れました。干支でいえばちょうど一周した12年目という事で、多くの方に参加して欲しかったのですが、急な日程変更もあり参加者7人という、いつものじゃっどツアーとなりました。

今回の訪問では、「机・椅子募金」で寄付を頂いて作った机や椅子に記名をし、また今年の対象校の様子や一昨年プロジェクト校の今の状態などを見学しました。

机椅子の記名は、7人で手分けをして作業を行いました。いかんせん60セットを超える記名となり、この作業だけで一日を費やす事となりました。8月はラオスの学校も夏休みで、本来ならば子どもたちは登校しない頃なのですが、私たちが訪問するということで制服をきた子どもたちが迎えてくれました。普段使っている机に、見慣れない文字（日本語やアルファベット）とラオス語で寄付をしてくださった方の名前が書かれていくと、隣り合った子ども同士小さな声で読み上げていく様子を見ることは、いつもの事ながら胸が熱くなる光景です。特に今回は参加者である隈元さんのハーモニカ演奏や、石川さんの童謡に子どもたちは大喜びでした。

一昨年のプロジェクトでトイレ使用の啓発活動を行った事を覚えていらっしゃると思います。水道のある3校にはトイレだけ、水道のない3校には各方面からのご助力を頂きポンプ付井戸とセットでトイレを設置しました。そのポンプ付井戸を設置した学校（Nonsagna 小学校・Samket 小学校）にも今回記名と視察で訪問しました。2校とも作った当時と変わらなくらい綺麗に使用されており、それだけプロジェクトの内容が良かった証でもあるので嬉しく思いました。（他のプロジェクトのトイレを拝見するとその使用ぶりに驚かされるときがあります）しかし一方では、ポンプが壊れた為近くの井戸から水を運んで使用していました。当時のスタッフが昨年メンテナンスを行っているのですが、その後壊れ、壊れた理由はわかっていても修理をする予算がないらしいのです。後日お会いした当時のスタッフに修理をお願いしましたが、施設をプレゼントしてもそれを活用できる体制がこれか

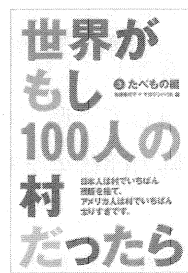
らのじゃっどには必要だと強く感じた事例でした。

ビエンチャンはこの数年で驚くほど都市化がすすみ、10年ぶりの帖佐徹さんは「今どこを移動しているか目印があるのにわからない」と何度もおっしゃっていました。そうした中、訪れたのは、ビエンチャン市街地から1時間ほど離れたナムグム川近くの集落にある学校です。そこでは、井戸で水を汲み、家畜を飼い、ほとんど自給自足の昔ながらの生活が営まれていました。車で一時間ですから、この集落からビエンチャンへ働きに出ることもあるでしょう。しかし、同じ国、ましては同じ市内なのかと思うほど衛生環境は違ってきます。こうした集落の子も、都会の子も等しい環境で育ってくれるようにじゃっどの活動はあるのだと思うのです。

「世界がもし100人の村だったら」のもとになったメールの原案者、ドネラ・メドウズさんのエッセイに次のような文があるそうです。それは、彼女がスリランカで考えた貧しい人たちがしあわせになる5つの条件を述べたものです。

一つめはきれいな環境（空気と土と水）、二つめは天災や戦乱のために逃げなくてすむこと、三つ目は予防をふくめた基礎的な医療、四つ目は基礎的な教育、そして五つ目は、伝統に誇りをもち、楽しむことができること。

まさしく、じゃっどの目標としている事と同じではないでしょうか？子どもたちが自分の国の文化に誇りをもち元気に過ごせるように、これからもがんばっていきたいと思います。



引用：池田佳代子+マガジン

ハウス)

★じゃっどのHPからアクセスしてくださいね。

ラオスを訪ねて

隈元郁子

8月の夜明けの早い朝、遥かな国ラオスへ期待に胸膨らませ、行ってきました。行く前に「ラオスには、昔の日本の良さが残されているのよ。礼儀正しくて、質素でどこか物静かでね。家を訪ねると先ず、ご飯を食べたかを聞いて、食べ物がある限りすすめる。信仰心が深く“足るを知る”ということも分かっている、あくせくしていない。とにかく何よりも、子供たちのキラキラした瞳がすばらしい」等と聞かされていました。東南アジアの中で近代化が遅れて、俗化していなくて、素朴であり《人々は競い合うのではなく、助け合って生きていかなければならない》という本来の、原始的な姿が残されていると言う事なのでしょうか・・・私は以下のようなことを私の目で見、聞き、実感してきました。

ラオスでは、時間がゆったりと流れていて、そののんびりとした空気を吸い、しっかりと味わいました。丸いテーブルを囲んで、4～5人くらいでのんびりと何やらだべっている姿を、あちこちで見かけました。市場では商売していながら、ゴロンと寝転がっていたり、売る気があるのかなのか、声高に売りつけたりしない。女性は髪を一つにスッキリとまとめあげ、多くの人はブラウスとシン(ロングのタイトスカートという感じ)の民族衣装に身をまとい、立居振る舞いが静かです。せかせかと急ぎ足の人などみかけません。男性は、権威的でなく、どこか一步引いたような、かといって女性が危険にさらされたら、勇敢に戦い助け出すという強さは秘めているという感じです。

牛、犬、ニワトリ等動物とも共存して生きていて、ニワトリが庭先に放し飼いでえさをついばんでいるのどかな様子は、一昔前の日本の農家にタイムスリップしたような懐かしい気分を味わいました。自然の恵みの中で自分たち人間も自然の一部として、たゆたう流れの中で無理をせず、ありのままに生きているラオスの人々、いにしえへの郷愁がこみあげてきました。

ラオスの人々と、昔の日本人の姿とを重ね合わせながら、今の近代化した便利な時代に生きている私、でもなぜか安心しておれない漠然とした不安の中にいる私があります。ラオスの旅はゆったりと流れて

いるラオス時間の中に、純朴な人々の中に身をおくことで、自分を素直に振り返ることができました。ラオスの人に「一度きりの人生、何をそんなにあくせく生き急いでるの？ ゆっくりでいいじゃない」と優しく諭されたような気がしました。この素晴らしい出会いをいつまで大切にしていきたいと思えます。

このような旅の機会を与えていただいた「じゃっど」の事務局の方たちに感謝いたします。

コプチャイ



9年ぶりのラオス訪問

神崎侯至

何故だろう、うまく表現できないし自分でも解らないのだが、なんとなく少年時代の懐かしい気持ち、景色だろうか？ 風なのか？ 匂いなのかとても快い。日本に無い時間がゆっくり流れる感じのラオス、9年ぶりの訪問である。

しかし9年前とすると、道路は立派に整備されトヨタのピックアップがたくさん走り、通勤ラッシュの様に人々が移動し、建物は建築ラッシュでみちがえるようになり、生活のスピードがだんだん速くなっているような感じを受ける、これが近代化なのだろうか？

村の民家を訪問したときも、前回見かけなかった冷蔵庫・ステレオなど家電製品がふえて生活様式も少しずつ変化しているみたいです。便利さは後戻りできない、豊かさとは何だろうか考えさせられました。

さて、ボランティアについて報告したいことがありました。 学校を訪問した時、小幡代表の提案で黒板を寄付することになったのだが、自分の生活から考えるとわずかな金額なのに、校長先生の喜びの表情はとても感動的でありました。

いつも気になっている、僕らは本当に役に立っているのか？ ボランティアなんかすこし恥ずかしいとの感も吹き飛ぶぐらいとても感謝され、なんとも言えないすがすがしい気持ちになりました。相手に素直に喜んでいただける、なかなかいつもの生活で感じられない体験でした。

ツアーを企画していただいた事務局の皆様本当に有難うございました。

この感動を忘れずに、じゃっどに協力して、ラオスの子供たちに喜ばれることを継続していきたいと思います。

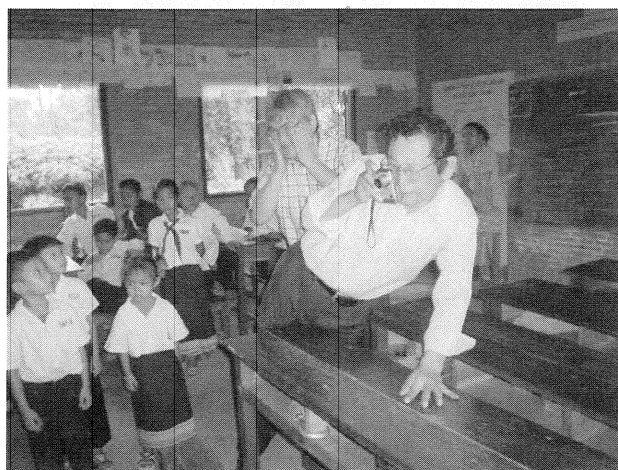
最後に みんなでラオスを訪問しようよ

食事はとってもおいしくタイ料理などの独特の癖もなく日本人ごのみの味付けで最高、飲み物もラオラオ（焼酎）＆ラオビールは絶品なのだ、料理の合わない海外旅行は苦痛だがラオスはまったく心配いらない、素晴らしい旅行を保障します。

ホテルも快適でサービスも最高です。初日、ホテルに午後10時過ぎに到着、フロントのお兄さんにラオラオを買いたいとダダをこねると、ホテルの人がサービスで1本用意してくださり、おいしい寝酒をいただきました、感謝・感謝。

衛生面も、今回のツアー参加者が心配していた蚊だが、私は虫除けスプレーも携帯かとりも使用しなかったが1回も刺されることなく、快適な滞在でした。

海外旅行で一番心配な言葉も、なんと指差しラオス語会話が出版されて買い物など非常に便利になっています、安心してツアーに参加しよう！！



カメラマンは大変だ～

↑(神崎氏)



おいしい米の麺、「フォー」



高床式の住居

家の床の隙間から落とした食べ物を食べる鶏
たまに、子どもの糞も上から落ちてくる・・・
なんて合理的な家なんだろう！

じゃっどツアー報告

帖佐理子、帖佐徹

去年は ASEAN 外相会議がヴィエンチャンで開催されました。おかげで、日本からの援助などで道路、ホテルが整備されました。難民として、フランスに出ていたラオス人が開設したというスーパーマーケットに行きましたが、駐車場は広く、中に日本料理レストランまでありました。売っている物も品揃えが豊富で、冷凍食品などもあり、賞味期限内に売れるのだろうか心配になりました。この様な変化が人々の日常にどの程度の経済効果をもたらしたかはわかりませんが、町外れの村の小さな家にもテレビのアンテナが増えました。子供達の服もきれいになってきたように思います。少しずつでも、良い方向に変わるといいのですが、数年前に外国からの情報が急に増えた頃、Dr.ソムチットが「良いものを入れると、同じだけ悪いものも入ってくる。世の中そういうものよ。」と言っていました。

日本からの援助ですが、“じゃっど”しか実施していなかったラオス学校保健にいまや、日本国政府のプロジェクトが多数関わっています。先日は国際保健医療学会でラオス関連が 8 件も報告されました。自由集会として興味を持つ者たちが話し合う場も作ってあるのですが、「途上国における学校保健」のテーマに 50 人ほどが集まり、ラオス、タイ、タンザニアからの報告がありました。帖佐は“じゃっど”の活動を報告しました。また、現在ラオスで活動している人たちから聞いたのですが、“じゃっど”の吉田いつこさんが、サイヤさん、マイさん、NGO「ラオスの子供」等と共に作った紙芝居や、いつこさんが習っていたケーン（ラオスの民族楽器、笙の笛に似ている。）の先生に作っていただいた「アナマイ・ソング（衛生の歌）」がラオス中にどんどん広まっています。「アナマイ・ソング」はラオスの人気歌手ノイ（若い女性です。）の歌う CD が作られ、彼女がテレビで歌っているそうです。8 月にラオスを訪問したという元青年海外協力隊の野中大輔さんが“じゃっど”の紙芝居をテレビでアナウンサーが読んでいるのを見た。と知らせてくれました。彼は“じゃっど”と同時期にウドムサイで活動していたので“じゃっど”紙芝居を現地病院のテレビ用にと VIDEO-CD に作ってくれたことがあります。歌や紙芝

居が国中に広がると想像すると、わくわくしませんか。

ラオス国が実行できるようになったら、“じゃっど”は撤退と言っていますが、日本国のプロジェクトがどんどん入ってきて今後どうなるのだろうと考えてしまいます。今月 11 日から三週間、Dr.ソムチットが日本に滞在します。JICA の研修です。1 月 22 日に東京で帖佐は会う予定です。その日は、小幡理事長もちょうど東京滞在中なのですが、オリンピックセンターに泊り込んでの食育研修（理事長は学校栄養士です。）なので、抜け出せないそうです。残念。それでは、鹿児島島の“じゃっど”サポーターの意見を持って上京し、ソムチットと今後の活動について話し合ってきます。ラオスとは、メールでやりとりしますので、“じゃっど”の皆様、これからでも“じゃっど”へのご意見ご要望を“じゃっど”事務局まで、どしどしお伝えください。



首都ビエンチャンの風景

負けるが勝ち！

石川佳奈

ラオスツアーから帰ってきて約半年。今でも、ふつとラオスのことを思い出すことがあります。日本で忙しすぎる毎日を送っていると「あのラオスという国は、本当に実在していたのか？」と時々、疑いたくなることがあります。

私は今、学校現場で働いていますが、日本では、小学校の子どもですら「負け組にはなりたくない」「負け組にならないように」という言葉を簡単に口にします。「勝ち組、負け組」ニュースで流れるこの言葉の基準を経済力とするなら、ラオス人は、明らかに世界の中で「負け組」です。しかし、私がツアーで出会ったラオス人は、一人として暗い顔つきをしている方はいませんでした。老人は、地域の中で大切にされ、若者は将来に対しての明るい展望を語ってくれました。そういう彼らの家や学校はとても貧しく、日本人であれば逃げ出したくなるような環境であるにも拘らず、なぜあんなに幸せそうに暮らしているのか？「日本人も昔は、ああだったんだよ。」という前に、彼らのようにもう一度、身近な人を大切に、時と時の間ではなく、人と人の間でじっくりと大切なことを見極めながら生きていけると、「負けるが勝ち！」の真意がわかるのかもしれないなあ・・・と思う今日この頃です。



「幸せなら手をたたこう！」をみんなでやっているところ。盛り上がりました！

♪♪みんなで手をたたこう♪♪



新しい机いすの、使いごころはどうか？



雨季になると、向こう岸の畑に渡るのも舟を使います。なんとオールは、脱いだサンダルです！



ラオス語シールを貼ってもらった絵本は、ここラオスにある NGO「シャンティ」を通して、学校に届けられます。図書館にも絵本が増えてきました。



日本でいう、移動図書館です。折りたためます。

【事務局たより】

新規会員・ご寄付（2005年10月～2006年1月）

感謝の気持ちと共に、ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきました。（以下敬称略）

■ 新規会員 木場弥生(神奈川県)山下忠義、小林キヨ子
平山健介(薩摩川内市)

■ 平成17年度会費 飯尾茂樹、平屋四男（いちき串木野市）若松郁子、中野育子、神田安代、若松大介、松永良恵、山下忠義、大園孝子（薩摩川内市）河野通子（出水市）豊平修、豊平安子、福田弘子、時村誠一、時村ヨシ、時村睦子、豊平美和子、塚田ともみ、今村素子、森岡芳子、米山史朗、坂上恵子（鹿児島市）木場弥生（神奈川県）小濱泰昭、小濱千枝（宮城県）姫野治子（福岡県）松下友美（薩摩郡）森田正人（愛知県）松永由里子（阿久根市）今村賢治（姶良郡）阿部雅昭、阿部貴美子（東京都）

■ 平成18年度会費 飯尾茂樹（いちき串木野市）小林キヨ子、平山健介（薩摩川内市）

■ 寄付金 福田弘子、時村誠一、時村ヨシ、時村睦子、塚田ともみ、坂上恵子（鹿児島市）

■ 大口寄付金国際ソロプチミスト鹿児島一川内 50,000 円

■ 机、いす募金

中野育子（薩摩川内市）大沼啓一、大沼雅子（神奈川県）
（株）キッセイ薬品、坂上恵子（鹿児島市）

【国内活動】

10月18日(火) 熊本県国際交流協会から4名事務局訪問

10月22日(土)～23(日)純心大学祭 バザー参加 増岡淳子、宮脇美智子、内村絵美、竹下香織、小幡順子、柴こうこ、南恭子、坂元鮎美、定村真琴、竹原亜矢子、原田有布子、牧田弘子、古川孝子、高橋真弓

11月19日(土)スタディツアー報告会 14:00-16:00

すこやか健康プラザ

11月21日(月) シャンティに、絵本60冊購入依頼

12月6日(火) 西日本国際財団専務理事 事務局訪問

12月12日 川内小学校 総合学習 卓話（古田宣稔）

12月13日 国際交流事業意見交換会（帖佐事務局長）

12月20日 国際ソロプチミスト卓話（帖佐事務局長、高橋）

1月17日（株）キッセイ薬品 卓話（帖佐事務局長）

1月20日 じゃっど新年会



ツアー報告会の様子

11月21日のツアー報告会には、報告者はもちろん、遠方では、東京から木場さんご夫妻が駆けつけてくださり、約30名の参加がありました。ありがとうございました。

ラオスの切手あれこれ

Dr ソムチットから送られてくる報告等が入った封筒に貼ってある切手です。



じゃっど INFORMATION

★ラオス語翻訳シール貼り

またまた、SVAの絵本を届ける会に賛同し、60冊購入しました。シールを貼る作業のお手伝いがいただける方、ご自宅に持って帰ってもらって、また事務局までお持ちください。(ついでがある時で結構です)。今回は、延べ 24 名のご協力があり、集められた本は 2 月にラオスに運ばれそれぞれの学校に届く予定です。ありがとうございました



★ 机いす募金、会費、ご寄付

3 月は年度末になりますので、お早目に会費納入くださいませう、よろしくお願い致します。

お振込は 下記までお願いします

郵便局 02050-2-4746 口座名 JADDO

★ 国際ボランティア日本語教師養成講座のご案内

定員:10 名

開校日:2 月 7 日、14 日、21 日、28 日(毎土曜日)

時間:10:00~11:20、11:30~13:00

場所:EII 日本語教育センター鹿児島県支所

(鹿児島中央駅西口より 2 分)

受講料:44,000 円(教材費込み) 全 8 回

主催:全国日本語教師会

協賛:EII 日本語教育センター

後援:日本語教育新聞社

*修了後は「国際ボランティア認定証」が授与されます。

興味のある方はじゃっど事務局までお問い合わせください。

★HPご覧になったことがありますか？

じゃっどのHPから、リンクしてある、[AMAZON.COM](http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/) で本などを注文すると、購入した代金の一部が、じゃっどにはいつてきます。じゃっどのホームページから、アクセスするというのがポイントです。あとの手続きは、通常と何も変わりません。みなさん、本を探すときや購入する時は、じゃっどのHPを思い出してくださいね。よろしくお願い致します。

アドレスは、<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/> です。

先月号でご案内した、「旅の指さし会話帳 ラオス語版」もぜひ、じゃっどから、アクセスしてみてください。

★ 地球市民フォーラムのお知らせ

★ 2006 年 2 月 5 日(日)

■スケジュール■

稲盛会館(鹿児島大学工学部内)

第一部<講演会>

13:30~15:00

入場前売り券 500 円

「ツバル 沈みゆく島国が語りかける現実」

当日券 600 円

講師:遠藤秀一氏

第二部<ワークショップ>15:10~16:30

○身近なことから考えよう○鹿児島で活動している NGO、NPO 紹介

スタッフとしてお手伝いいただける方を募集しています。事務局までご連絡ください！

◎◎◎◎ 編集後記 ◎◎◎◎

◎日本は、どか雪で死者が 100 人を超えています ラオスに雪は無いんだろうなー・・・耐震偽造は有るのかな？

ホリエモンみたいな人はいるのかな？ (KAMI)

◎ 先日 ipod が当たりました！元祖ウォークマン世代としては、もう感激もの！でも・・・使うシーンがないのが、悩み。(はいぶりっじ)

◎“若い人” がじゃっどのサポート隊になってもっと活動して欲しいなあ！と思う年になってしまいました。今年も 50 代パワーで頑張ります (MIYA)